

2020年卒
Vol.09

7月1日時点の就職活動調査〈速報〉

キャリアス就活2020 学生モニター調査結果（2019年7月発行）

2020年卒業予定者の採用面接が6月1日に正式に解禁されてから1カ月が経ち、就職採用戦線は大きな山を越えた。7月1日現在のキャリアス就活・学生モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、内定率は3年連続で8割を超えていたことがわかった。

内定状況のほか多岐にわたる項目を調査したが、取り急ぎ主要指標のみ紹介したい。

1. 7月1日時点の内定状況

- 内定率は84.0%。6月時点（71.1%）より12.9ポイント上昇
- 前年同期実績（81.1%）を2.9ポイント上回る
- 就職活動終了者は全体の72.0%。前年（68.2%）を3.8ポイント上回る。継続者は28.0%

2. 就活継続者の動向

- 内定保持者の継続理由「本命企業がまだ選考中」32.1%、「自分に合うかわからない」28.1%
- 未内定者の4人に1人が「就職以外の道（進学、留年など）を考えている」（23.3%）

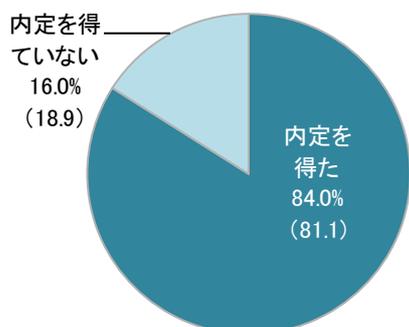
1. 7月1日時点の内定状況

7月1日現在の学生モニターの内定率は84.0%。先月調査（6月1日現在）の71.1%から1カ月で12.9ポイント伸び、3年連続で8割を超える高水準となった。前年同期実績（81.1%）に比べ2.9ポイント高い。7月の内定率が84%台をマークするのは、リーマン・ショック前の2008年卒者以来のことだ。

調査時点で就職先を決定して活動を終了した者の割合はモニター全体の67.7%。複数内定を保留しているなど未決定である者（4.3%）を合わせると、終了者は72.0%になる。前年同期（68.2%）より3.8ポイント上昇しており、終了のペースはさらに早まった。そのぶん継続者の割合は減少し、活動継続者は「内定あり」（12.0%）、「内定なし」（16.0%）を合わせて28.0%。

就職戦線は、大手企業の夏採用や中堅中小企業を主軸に第2ラウンドへと移っている。

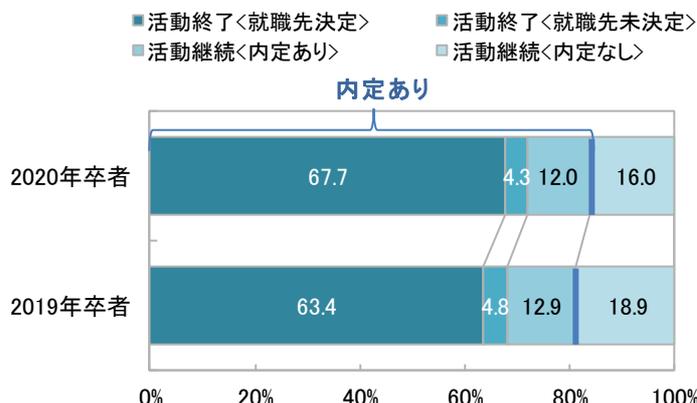
<7月1日現在の内定状況>

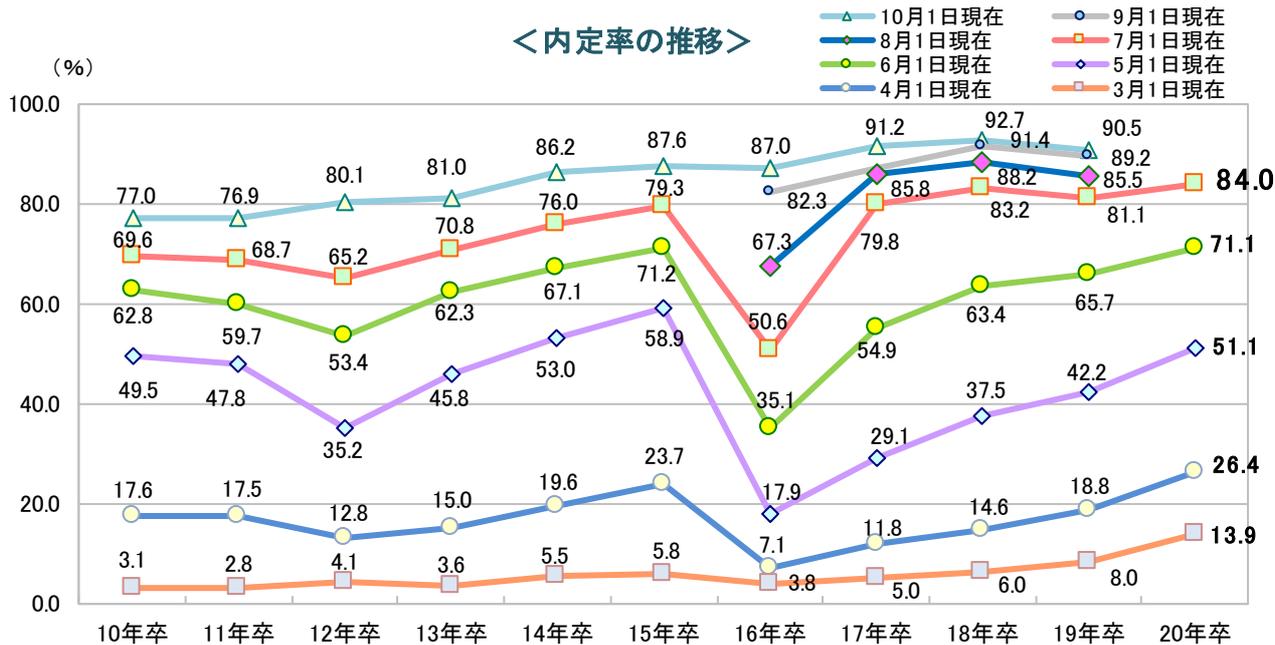


*「内定」には、内々定を含む

※()内は2018年の同調査での7月現在の数値

<7月1日現在の活動状況の分布>





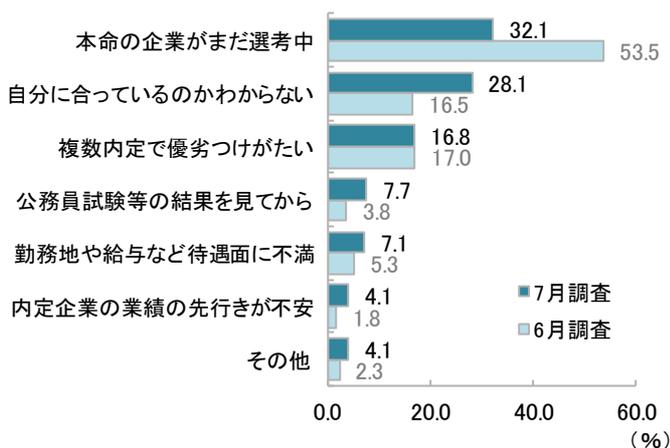
※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17~19卒は6月 ※15年卒以前は8月、9月のデータはなし

2. 就活継続者の動向

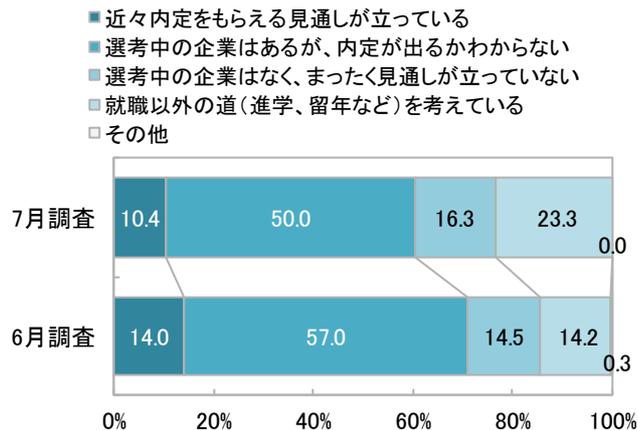
内定を得ても就職先を決めていない理由を見ると、6月調査で過半数が挙げた「本命の企業がまだ選考中」は32.1%へと大きく減少。「自分に合っているのかわからない」が10ポイント以上増え(28.1%)、内定は得たものの承諾を迷う学生が一定数いることがわかる。

一方、未内定者に内定獲得の見通しを尋ねると、「近々内定をもらえる見通しが立っている」は1割で先月より少なかった(10.4%)。未内定者の多くが先の見通しが立っていない状況だ。なお、4人に1人(23.3%)は「就職以外の道(進学、留年など)を考えている」と回答した。

＜内定保持者が継続する理由＞



＜未内定者が内定を得る見通し＞



調査概要

- 調査対象 : 2020年3月に卒業予定の大学4年生 (理系は大学院修士課程2年生含む)
- 回答者数 : 1,261人 (文系男子411人、文系女子382人、理系男子312人、理系女子156人)
- 調査方法 : インターネット調査法
- 調査期間 : 2019年7月1日~4日
- サンプリング : キャリタス就活 2020 学生モニター (2016年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」)